

世界救世教①之光教団 京都・滋賀布教区信徒大会 教主様お言葉

於：京都南布教所

皆様、本日は「京都・滋賀布教区信徒大会」おめでとうございます。

地上天国祭を約1か月後に控えた本日、ここ京都において、京都・滋賀布教区の信徒の皆様と、このように親しくお目にかかることができますことを大変嬉しく思っております。

私は、皆様が成井理事長の揺るぎないご決意と真心こもるご指導のもと、明主様がお示しになっている救いが全く新しい救いであることに目覚められ、そして、この全く新しい救いがすべてに及んでいることを一人でも多くの人々と分かち合うべく励んでおられますことを、まことにありがたく思っております。

私どもの思いの中心には、主神がおられ、天国が存在しております。

そして、主神が創造された天地万物一切が存在しております。

主神は、私どもを世にお遣わしになる前の天国において、ご自身の子たるメシアを生むという創造のみ旨をもって、^{わけみたま}分霊と呼ばれる私どもの霊の体をお生みになりました。

私どもは、主神の子となるために、すでに天国において、メシアの御名に結ばれていたのです。

主神は、そのメシアの御名に結ばれた私どもを世にお遣わしになり、一人ひとりの自我意識をお創りになって、そこから発する思いをもって天国に立ち返らせて新しく生まれさせ、主神ご自身の子となさろうとしておられます。

すなわち、地上に遣わした私どもを再び天国に迎え入れて、ご自身の永遠の命を授け、その天国で私どもと共に住んでくださろうとしておられます。

私どもは、地上にいながらにして、主神のおられる天国に、明主様と共に住まわせていただくことができるのです。

そのことが明主様のみ教えくださった「地上天国」の真の姿なのではないでしょうか。

そして、地上天国建設とは、私どもが天国も地上も私どもの思いの中に存在していることを認め、一人ひとりが天国に立ち返って、天国とひとつにならせていただくという、その思いを自らのうちに樹立することであると思います。

しかしながら、私どもの父母先祖の方々を始めとする全人類は、自らが天

国に立ち返って、主神の子として新しく生まれるべき存在であることを忘れ、主神の創造のみ旨をないがしろにして生きてまいりました。

そうした私ども人類を、主神は赦してくださいました。

主神は、私ども一人ひとりの中で夜昼転換を成し遂げられ、主神をないがしろにしていた私どもをメシアの御名にあって赦してくださいました。

この最大の福音を、私どもは明主様によって知らされました。

ですから、明主様の信徒である私どもは、この人類最大の福音である主神の赦しを、まず自らが明主様と共にお受けし、そのみ恵みを多くの人々と分かち合い、その喜びを主神に帰す御用にお仕えする務めがあると思います。

私どもは、無条件で赦していただいたのですから、実感があろうとなかろうと、その赦しを無条件でお受けし、無条件で人々と分かち合い、主神をお讃えさせていただく立場なのではないでしょうか。

そして、そのために、主神は私どもを地上にお遣わしになったのではないのでしょうか。

私どもの思いは、私どものものではなく、私どもを創造された主神のものです。

私どもの思いを通じてこそ、主神は、全人類を赦され、救われたものとしてお受け取りになることができるのです。

だからこそ、主神は私どもの思いを必要としておられるのです。

ご自身の救いを成し遂げるために、どうしても私どもの思いを必要としておられるのです。

このことを明主様は、「大神の御業といへど人の身を通じて世人救ふにありける」というお歌をもって私どもにお示しくださっているように思います。

「人の身を通じて世人救ふ」とありますが、その意味は、“私ども人間の思いを通じて世の中の人を救っておられる、ということであると思います。

私どもが喜び、怒り、悲しみ、楽しみ、また、不安、心配、願い、望み、あるいは、良いと感じる思い、悪いと感じる思いなど、いろいろな思いを抱くのは、主神が、ご自身の救いを成し遂げるために、先祖の方々を始め、多くの人々のいろいろな思いを私どもの思いの中に集めてくださり、私どもの中に様々な心の反応を起こさせてくださっているからです。

そして、私どもと共にすべてのものを天国に立ち返らせ、メシアとして新しく生まれさせるという救いを成し遂げておられるからです。

このように、私どもの思いは、主神にお仕えするためにあるのですから、心の中のあらゆる思いを、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神に

委ねさせていただき、主神の思いとひとつにならせていただくことが、明主様の全く新しい救いにお仕えすることになるのではないのでしょうか。

この後、何人かの方々からの質問をお受けすることになっております。

主神は、救いのみ業を成し遂げるために、質問をする側の思いも、質問を聞く側の思いも、私どもの思いの中にあるすべてをお受け取りくださり、養い育ててくださるのですから、私どもは、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神に感謝させていただきたいと思えます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

以上